

令和3年度「自律した英語学習者育成プロジェクト事業」

報告書 (C高校)

1 令和3年度入学生の指導に係る全体計画 Plan

※ 3年間を見据えた指導計画及び生徒に身に付けさせたい力を、CAN-DOリストを踏まえて4技能の観点から記述する。

技能	1年	2年	3年
Reading	(指導計画) ①週1回の単語テスト ②①に合格できない生徒への追加指導 ③80～100語程度の教科書英文の精読と速読トレーニング (力) ①語彙力 ②語彙数を増やすことへの意識付け	(指導計画) ①週1回の単語テスト ②①に合格できない生徒への追加指導 ③100～120語程度の教科書英文の精読と速読トレーニング (力) ①語彙力 ②精読(文構造を読み解く力)と速読力の養成	(指導計画) ①週1回の単語テストと不合格の生徒への追加指導 ②110～200語程度の文章の精読と速読トレーニング ③さまざまな英語の表現と問題形式に慣れさせる (力) ①語彙力 ②スキミングする力 ③正確に文脈を把握する力
Listening	(指導計画) ①教科書のシャドーイング ②週1回の教材リスニング ③Recitation Contest (力) ①キーワード、キーセンテンスを聞き分ける力 ②強勢の乗っていない音を聞き分ける力 ③教科書レベルの英文の概要が理解できる力	(指導計画) ①教科書のシャドーイング ②週1回の教材リスニング ③Message Contest (力) ①内容をまとまりとして捉える力 ②つながった音、脱落した音を聞き分ける力 ③教科書レベルのまとまった内容を捉える力	(指導計画) ①外部試験や模擬試験、それらの対策問題を用いたより実践的な練習 (力) ①発話されている状況・内容を正確に聞き取る力 ②これから発話される内容を推測する力 ③講演・講義など自然なスピードの英文を理解できる力
Speaking	(指導計画) ①パフォーマンステスト ②Recitation Contestによる音声指導(実際のスピード音声聞き英語のリズムに慣れる) (力) ①発話しようとする姿勢 ②正確な発音とリズム	(指導計画) ①パフォーマンステスト ②Message Contestによる音声指導(実際のスピード音声聞き英語のリズムに慣れる) (力) ①正確に伝えようとする力 ②より正確な発音とリズム	(指導計画) ①外部試験及びその対策問題を用いたより実践的な練習 (力) ①与えられた話題や社会的な内容を発話する力 ②論理的に発話する力
Writing	(指導計画) ①週1回の英語構文テストと不合格の生徒への指導 ②語順、時制、数、代名詞を正しく用いて単文を作る (力) ①積極的に表現しようとする姿勢 ②正確な英文を書く力	(指導計画) ①週1回の英語構文テストと不合格の生徒への指導 ②副詞や接続詞、状況を具体的に明示する副詞節、形容詞節を伴った英文を作る (力) ①文法的に正しく、より具体的に内容を伝える力	(指導計画) ①与えられた状況の中で適切な内容を適切な方法で表現する ②制限時間内で英作文を構成し、書き終える練習 (力) ①内容を論理的に整理し、段落構成を意識して書く力

2 試験結果を踏まえた(1)現状分析、(2)重点課題、(3)重点課題の克服に向けた実践(指導と評価の工夫) Do

※(3)実践については、各年次3月までの実践とし、民間試験受験前後の変化等がわかるように具体的に記述する。

※パフォーマンステストの実施についても、実施内容や回数等を記述する。

技能	(1) 現状分析	(2) 重点課題
	(3) ①実践(指導の工夫)	(3) ②実践(評価の工夫)
Reading	(1) ・未知語があると、その場で読解が止まってしまう ・文脈を推測しながら読む姿勢に欠ける ・長い英文になると読む意欲が失せ、スピードも遅くなる傾向がある	(2) ・語彙力を増強し、単文単位での意味理解から、より長い英文における意味理解につなげる ・未知語を恐れずに長文を読むことに慣れさせ、読むスピードも意識させる
	(3) ① ・週1回の単語テスト(不合格者は分からなかった単語の練習シートを提出する) ・複数の未知語が存在する文章の読解や適切な長さの英文の読解を行う	(3) ② ・練習シートを提出した生徒には、合格最低点を付与する ・理解できた部分だけでも文字や発音で表現することができる姿勢を評価する
Listening	(1) ・英語の音を聞いたり、発したりすることへの抵抗感はあまりないが、場面や状況を想像する力に欠ける ・聞き取れたことやキーワード等のメモをあまりしていない	(2) ・音に慣れるために、英語の音に触れる時間をできるだけ多くとる ・状況を把握するためのキーワード、キーセンテンスを意識させ、あらかじめ設問を読み、メモを取る習慣を付けさせる
	(3) ① ・週1回のリスニング教材を使った授業 ・授業でのシャドーイングを用いた指導 ・あらかじめ内容を知っている文章のキーワード、キーセンテンスを指摘させ、そこを意識しながら聞き取る	(3) ② ・リスニングにおける文法的知識の重要性や、シャドーイングの練習の意義を説明 ・継続的なリスニング練習や外部試験・模試等の教材を使った実践練習を行い、評価に組み入れ、合格や成績アップにつなげる
Speaking	(1) ・モデルに従っての発話は積極的に取り組むことができる ・時制や数についての意識がまだ低く、英語の正確さもまだ十分でない	(2) ・英検2次試験をはじめ、外部検定のSpeaking試験の形式に慣れさせる ・疑問詞に注目させ、何をどのように答えるべきかを正確に把握させる
	(3) ① ・パフォーマンステストの前にQuestioning Listを配付し、事前指導及び準備、練習の時間を十分に与える ・Recitation Contestの事前指導及び実施、また個人での練習方法(動画視聴や音読プリントの利用法)を示す	(3) ② ・ALTのサポートやスピーチの動画を利用し、到達すべきモデルを示す ・文法的な誤りの指摘は最低限にとどめ、会話への積極性も評価した ・ALTによるパフォーマンステストのフィードバックを行い、次回に生かす
Writing	(1) ・モデルが与えられた簡単な英作文では積極的に取り組むことができる ・語彙はもちろん、大文字の位置や時制、数についての意識はまだ低く、英文も正確でないことが多い	(2) ・模擬試験及び外部検定試験等におけるWriting問題の形式に慣れる ・間違いを恐れずに、英語で書く機会を増やし、分量や内容、構成にも意識した練習を行う
	(3) ① ・教科書のトピックに沿い、自分自身のことについて書かせる ・「シークレットジャーナル(英語での交換日記)」など、英語で書く機会を増やす	(3) ② ・日本人教師やALTによる添削指導(最低限の指摘のみ)を行った ・ALTによる評価を行い、Common Errorsを全体で共有し、英作文力向上に役立てた

3 実践の検証 Check 及び改善案 Act

- ※ 検証については、各年次3月までの実践について、全体計画及びCAN-DOリストを踏まえながら行い、検証の結果（評価）を記述する
- ※ 改善案については、次年次以降の指導と評価に向けて、全体計画、CAN-DOリスト、これまでの実践、検証を踏まえて記述する。

技能	実践の検証	改善案
Reading	1 週1回の単語テストの実施により、語彙数を増やすことについての意識は高まった。Writingを見据え、意味を理解し、正確に使えることについての意識も向上した。	1 覚えた語彙の運用に心がけ、Writingの指導と合わせて正しい綴りで書けるようにする。またSpeakingの指導と合わせ、Outputの場面をさらに設ける。
	2 名詞の定着度は比較的高いものの、動詞、形容詞、副詞等の定着が悪い。そのため長文読解時に未知語が出てくると、読むスピードが遅くなり、時間内に解き終わらず、設問にも正解できない。	2 派生語や関連のある語のグルーピングなど、記憶に残りやすい覚え方を随時提示する。また繰り返し練習することを念頭にoutputの場面で多く使うことや長文を読む練習に多く時間をとることを心がける。
Listening	1 単語や短文レベルのシャドーイングから始まり、練習を継続することで少し長めの英文でもできるようになってきた。音の連結や欠落などにも少しずつ慣れることができた。	1 週1回リスニング教材を継続し、シャドーイングやディクテーションなどのトレーニングに取り組む。また音の連結や欠落などをさらに意識させ、文法的知識がリスニングにも役立つことを伝える。
	2 パフォーマンステストでは、疑問詞に注目させ、また事前に十分な準備をさせることで、ほとんどの生徒が質問を正確に聞き取ることができた。	2 パフォーマンステストをALTと連携しながら継続して実施する。また正答率が低かった問題やCommon Errorsを共有し、次回への改善につなげることができた。
Speaking	1 パフォーマンステストでは、事前に十分な準備をし、個人やペアワーク等での練習をさせることで、ほとんどの生徒が質問に対して正確に答えることができた。レシテーションコンテストでも同様に準備をし、それぞれの実力に応じた発表をすることができた。	1 パフォーマンステストとレシテーションコンテストをALTと連携しながら継続して実施する。パフォーマンステストでは、自分の意見や感想にプラスして1～2文程度の理由や根拠を答えられるように練習を継続する。正答率が低かった問題やCommon Errorsを共有し、次回への改善につなげることができた。
	2 モデルに従って発話や会話をすることはできるが、状況に応じてその場で必要とされる発話行為にスムーズに結びつかない。人前で英語を発話することに対しての心理的な壁は低くなったが、まだ暗唱レベルであり、相手に伝えようとする更なる姿勢が求められる。	2 これまで以上に授業内における口頭で使用する回数を増やし、読んで分かる語から発話に使える語に変えていくために、暗記している語彙の運用機会を増やし、「英語で話す」ことに慣れさせていく。また、次年度実施予定のMessage Contestに向け、Speakingに意識を転換させる。Writingと合わせた指導をしていく。
Writing	1 「英語で書く」ことに対する抵抗感は薄れつつあり、50語程度の英作文を書けるようになってきた。しかし、長い文が書けていても、似たようなことを繰り返して書いてしまうなど、論理的でない作文も見受けられた。	1 書き始める前の簡単な「構想メモ」の作成や英作文の形式を学ぶことで、接続詞や副詞などもうまく用いて論理的な作文を書く際の型を身に着けさせる。また「よくある間違い」を教室で共有することで、間違いを徐々に減らせるよう指導する。
	2 覚えた語彙がinput(読解)できる状態にとどまっている。作文の際にすぐ引き出し得る状態からはまだ遠い。スペリングミスや大文字の使い方など、英語の初歩的なミスが見られる作文もあった。	2 日本人教師やALTの協力を得て添削指導を行い、生徒個人の正確な英文に対する意識を高められるよう指導する。また英作文は単語力にも大きく影響するので、意味と共に正確に覚えられるように指導する。

